

山口県クライシスレスポンスチーム（CRT）

<http://www.h7.dion.ne.jp/~crt/>

2005.07.24.

1 沿革

始まり

全ての始まりは2001年6月の大阪池田小事件からでした。この事件は私たちの安全感を根底から揺るがせたのではないのでしょうか。もし我が子が通っている学校でこんな事件が起こったら誰が助けに来てくれるのか…。起こってから慌てるより自分たちにできる準備を始めようということで、事件翌日の精神保健福祉協会の運営委員会で専門家チーム作りを提案したのが始まりです。準備に2年かけ、2003年8月にスタートしました。

精神保健福祉センター所長が CRT の代表者でもあり、CRT の出動決定に関与し、隊員登録されているセンター職員は県職員として CRT 活動に参加しましたので、県と協会のコラボレーションという位置づけになりました。さらに、平成16年度から県の「学校メンタルサポート事業」が始まり、CRT の旅費のみ県が支給することになりました。また、ケア推進会議で CRT の位置づけなどが協議されました。

	全国・他県		山口県
1991.06.03	雲仙普賢岳大火砕流（死者・不明43人）	1991.02.	第1回アルコール基礎研修会（専門家ネットワークスタート）
1993.07.12	奥尻島津波（200人以上）		
1995.01.17	阪神大震災		
1996.06.13	ガルーダ機事故（3人死亡）	1996.02.03	山口県アディクション研究会発足
1998.07.25	和歌山毒物カレー事件（4人死亡）		
2000.05.28	NHKの番組で米国のCRT紹介		
2001.06.08	大阪教育大附属池田小児童殺傷事件	2001.04.01	アディクション研究会が精神保健福祉協会に合流
2001.08.	福岡県臨床心理士会「緊急支援の手引き」発行	2001.06.09	CRT準備開始
2001.09.11	米国同時多発テロ		
2002.03.	日本トラウマティックストレス学会（JSTSS）発足		
		2002.08.30	第1回ハートワープ研修会、CRT準備公表
		2003.01.11	県臨床心理士会と協議
		2003.03.17	情報センター立ち上げ
		2003.05.01	CRT代表者が精神保健福祉センター所長に就任
		2003.05.	隊員登録、CRT出動態勢整う
2003.07.02	長崎市4歳男児誘拐殺害事件	2003.08.23	CRT発足 （第2回ハートワープ研修会）
2003.12.18	京都宇治小侵入事件（2人傷害）	2003.10.17	CRT第1回出動 、県（センター）も直接関与
2004.01.13	静岡県サッカート事故中学生死亡（校長自殺）	2004.04.01	山口県学校メンタルサポート事業 スタート
2004.06.01	佐世保市小6児童殺傷事件	2004.08.19	ケア推進会議開催（学校メンタルサポート事業）
2004.10.23	新潟中越地震		
2004.12.26	インド洋津波（スマトラ沖地震）		
2005.02.14	寝屋川市小学教師殺害事件		
2005.03.20	福岡県西方沖地震		
2005.04.13	静岡県CRT第1回出動		
2005.04.25	JR福知山線列車事故		
2005.05.26	仙台育英高ウォークラリー事故（3人死亡）		
2005.06.16	長崎県CRT第1回出動	2005.06.10	光高校爆発物事件 でCRT第8回出動
2005.07.08	ロンドン同時多発テロ	2005.07.23	第4回ハートワープ研修会

2

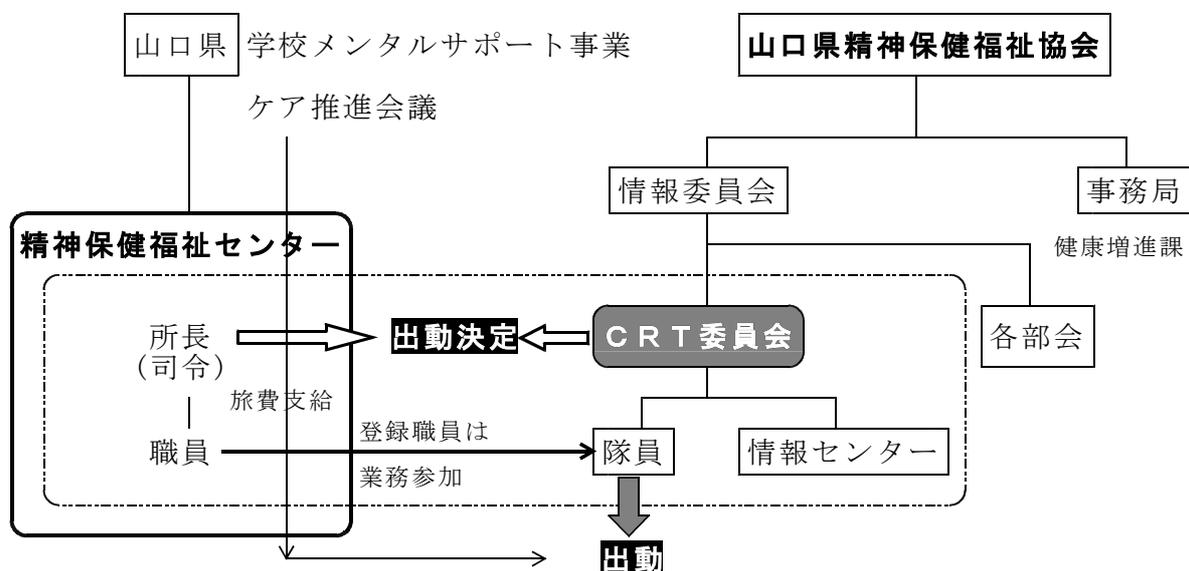
CRTの概況

名称：山口県クライシスレスポンスチーム
略称：CRT（通称名：“はーとワープ”チーム）
目的：学校危機へのメンタルサポート（緊急対応）
対象：山口県内の**小中高**等学校に所属する子ども達の**多く**が心に傷を受ける可能性がある事件・事故等

依頼方法：校長または所轄の教育委員会からCRT情報センターへ電話で依頼
派遣隊員：CRTに登録されている専門職数名
派遣期間：3日間以内（アフターケアなし）
支援内容：二次被害の拡大防止とこころの応急処置

- ①評価とケアプラン策定の手助け
- ②教職員への助言、サポート
- ③保護者への心理教育
- ④子どもと保護者への応急対応
- ⑤その他

運用組織：山口県精神保健福祉協会　山口県（精神保健福祉センター）と協働で運用
情報センター：子ども家庭支援センター“海北”



CRT委員会 2005.7.現在

委員長 河野通英（山口県精神保健福祉センター所長／精神科医／指揮担当）
 副委員長 稲野靖枝（長門一ノ宮病院医長／精神科医／指揮担当）
 副委員長 廣岡逸樹（山口県精神保健福祉センター主査／臨床心理士／指揮担当）
 委員 岩城 満（防府海北園園長／情報センター担当）
 顧問 藤森和美（武蔵野大学人間関係学部教授／聖マリアンナ医学研究所副所長／臨床心理士）

隊員登録状況

2005年7月24日現在で三十数人の専門会員が予備登録しており、うち17人を **CRT** 隊員として正式登録しています。現地に派遣されるのはこの 17人の中からになります。うち15人は既に実戦経験があります。(7/23付けで2人登録)

隊員区分	職種	待機区分
指揮隊員 (指揮担当) 3人	医師 3人 臨床心理士 5人	先遣隊可 15人 後続隊のみ 2人
正規隊員 (直接ケアまたは補助業務) 7人	精神保健福祉士 3人 保健師 1人	
補助隊員 (補助業務のみ) 7人	看護師 3人 その他 2人	

※医師は精神科医2人、小児科医1人。県職員は3名で、2人が精神保健福祉センター職員です。

派遣隊員の区分

派遣隊員は、次の3つに明確に区別されます。「指揮担当」隊員は、指揮、危機管理サポート、交渉、報道対応などを行います。「直接ケア」隊員がいわゆるこころのケアを行います。「補助業務」隊員というのは、食事の買い出しや記録など他の隊員のサポートを行います。

区分	主な任務内容
指揮担当	指揮統制、交渉、危機管理サポート、マスコミ対応
直接ケア	こころのケア(個別・集団)
補助業務	補給支援、隊員管理、任務支援、情報管理

3 CRT 出動状況

第1回出動 2003年10月19日(日)～21日(火) レベルⅢ

2003年10月19日(日)早朝、山口市で小6の双子が母親に絞殺され、母親は自殺を図りました(未遂)。公立小学校の依頼で同小学校へ6人の隊員を派遣しました。(6人全員初出動)

第2回出動 2003年12月10日(水)～12日(金) レベルⅢ

2003年12月10日(水)の早朝、小学3年の男児が母親に絞殺され、中学2年の兄が負傷、母親は自殺しました。市教育委員会の依頼で公立小学校に7人の隊員を派遣しました。(初出動2人)

第3回出動 2004年1月19日(月)～21日(水) レベルⅢ

2004年1月19日(月)午後、6歳の女兒が母親に絞殺され、母親は自殺を図りました(未遂)。市教育委員会の依頼で公立幼稚園に9人の隊員を派遣しました。幼稚園(16年

度からは対象外)はマンパワーに余裕が無く、C R Tの活動に制約がありました。(初出動2人)

第4回出動 2004年3月25日(木)～26日(金) レベルⅡ

体育館でレクレーション中に小4の生徒が急死する事故があり、市教委の依頼で公立小学校へ6人の隊員を派遣しました。(初出動2人)第4回はマスコミの取材・報道はありませんでした。第4回は2日間で撤収しました。

第5回出動 2004年9月3日(金)、5日(日)、6日(月) レベルⅢ⁻

母子(小6)の首吊り遺体が山中で発見され、市教委の依頼で公立小学校へ9人の隊員を派遣しました。(初出動2人)一部報道されましたが、学校への取材はありませんでした。土曜日を活動休止日とし、金・日・月の3日間活動しました。

第6回出動 2004年10月16日(日)～17日(月) レベルⅢ⁻

夕方、小学生5人が波にさらわれ小6の児童1人が死亡した事故で、公立小学校へ7人の隊員を派遣しました(初出動無し)。全国ニュースでも報道されましたが、学校への取材はありませんでした。2日間活動しました。

第7回出動 2005年4月13日(水)～15日(金) レベルⅢ⁺

中学3年生が校内で自殺、目撃生徒あり。市教委の依頼で11人の隊員を派遣しました(初出動なし)。

第8回出動 2005年6月10日(金)、11日(土)、13日(月) レベルⅣ

県立光高校で3年生がクラスに爆発物を投げ込み、怪我などで58人が救急搬送されました。県教委の依頼で11人の隊員を派遣しました(初出動1人)。金・土・月の3日間活動しました。全国のマスコミが殺到し、連日トップニュースで流れ、3日間で記者会見を5回開きました。日曜日にスクールカウンセラー約20人の打ち合わせがあり、月曜日はC R T・スクールカウンセラー統合チームで活動しました。以後、スクールカウンセラー(臨床心理士会)にこころのケアを引き継ぎました。

4 CRTの課題

CRTを準備した頃は、CRTの対象となるような事案は、山口県内では1年に1回あるかないか程度でしたので、スタート当時は、せいぜい年1～2回の出動を想定していました。ところが、蓋を開けてみると、2年間で8回の出動ということで、隊員の職場や家庭への影響は相当のものでした。

隊員は志を持ったボランティアであるため、事件の大きさを自覚して、各自相当な無理をして出動しています。その分、今後もこのペースで出動すると、CRTが継続できなくなる恐れが今回の出動で現実化してきました。

他にもいろいろ課題を抱えています。ボランティア主体での限界が見えてきたのが、第8回出動でした。